

→ 国際交流員 パトリック・ルムラーの

ドイツを語るパトリック



Vol.5

朝ごはんってなに？

夜8時半ごろ。翌日の朝に早く出かけるように準備する。シャワーがバスルームにない時代で、洗面器にお湯を溜め、ハンドタオルに石鹸をつけ、全身を擦りあろう。上から顔、上半身、下半身という順番で、一番綺麗な身体の部分から一番汚いと思われる部分まで洗っていく。バスタブの前にしゃがんで、頭にホースで水をかけ、髪を洗う。9時半ごろに床に入る。翌朝6時前に仕事の都合で早く家を出る母に起こされ、服を着、パン1枚を掴み、出かける。バスに乗り、朝7時半ごろに辿り着くのは小学校だ。こうした忙しい毎日の中、週末以外朝ごはんをきちんと食べる余裕もなかった。

ドイツでは朝早く出勤する人が今でも多いので、それに合わせ、保育園と学校も動いている。ドイツは連邦共和国であるので、州によって、教育制度がおおきく異なり、授業の開始時間は州によってだけでなく、学校によっても異なる。今でも7時半に授業を開始する学校がある。出勤する前に子どもを学校に連れていく親にとっては便利な時間だろう。ただし、1人で登校する子どもたちには、睡眠時間を優先し、朝ごはんを食べずに登校する傾向がある。遅刻する子どもと1時間目をサボる子どもがたくさんいると先生は訴える。昔から学校は勉強するのみの所だと思われるドイツでは、生徒は長い休憩がほとんどなく、12時前に学校が終わる生徒も多く、給食を食べずに下校する。しかし、現代の家族の構成は昔の構成と違い、共働きがドイツでも増加している一方だ。つまり、子どもたちは学校が終わってから家に帰っても親がいないことがあるので、昼食をきちんと食べない子どももたくさんいるだろう。

最近、8時から始まる学校もたくさんあるが、それでも、生徒は朝6時半ぐらいに起床しないと授業に遅刻するだろう。7時前に起きるのは特に子どもである生徒にとって、早すぎ、起きにくい時間であると思われる。そのために、1日中眠く、勉強ができない生徒もたくさんいる。こうした中、生徒の睡眠と食生活を考え、授業の開始時間をさらに1時間ずらし、睡眠が十分取れるように、そうして、朝ごはんがきちんと食べられるよう、生徒に十分な時間を与える学校が最近増加している。生徒が自ら授業の開始時間を投票で決める学校さえある。もちろん、授業の開始時間が遅くなると、その分は生徒が午後遅くまで学校に残りしないといけない。さらに、生徒に健康的な食生活がきちんと身に付くように学生食堂を設備する学校も増加している。ドイツの学校は勉強のみの施設から、日中子どもたちを預かり、面倒を見てくれる現代的な施設に変化しつつある。

日本だと、生徒の食生活と睡眠を考え、それに授業の開始時間と休憩をあわせることが当たり前かもしれないが、ドイツでそれを考える学校はまだまだ少ないだろう。



国際交流員 パトリックさんの

「びっくり箱」 第3回

講演会～ドイツの温暖化対策～

- 日 時 10月25日(日)午後1時30分～3時
- 会 場 国分寺公民館 視聴覚室
- 参加費 無料
- 申し込み 10月5日(月)～16日(金)

問い合わせ先

生活安全課 ☎40-5555

Email seikatsu@city.shimotsuke.lg.jp

ふくべ細工作りをしました

8月25日(火)きらら館において「市民とドイツ・ミュンヘン大学生の交流会」が行われました。初めに、緊張をほぐすためのゲーム。次にふくべ細工指導のふくべ洞さんからの説明を聞き、それぞれ考えてきた図柄をチョークで書き、絵の具で色を塗り、ラッカーを吹き付け、ひもを通して完成です。スタッフ手作りのかんぴょうサラダも好評でした。

たくさん話題に花が咲き、子どもも大人も楽しい交流ができました。また、上古山の柏崎孝さんより素晴らしいふくべ細工の展示もありがとうございました。

下野市国際交流協会 交流委員会

